

NEWS LETTER

横浜災害ボランティアネットワーク会議



編集・発行：横浜災害ボランティアネットワーク会議

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会内

TEL 045-201-8620 FAX 045-201-1620

E-mail: saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp

2015年12月発行 No.54

報告



茨城県常総市へ向けてボランティアバスを運行しました

台風18号による豪雨災害の被災地支援のため、茨城県常総市へ向けて、ボランティアバスを運行しました。日程は全5回、いずれも日帰りのスケジュールで、横浜市以外の方々も多数参加されました。今回は、10月20日（火）の活動内容についてご報告します。

実施日	内容	参加人数
10月8日（木）	畑に流れ込んだ藁やゴミの撤去作業 集合住宅の周りの道路の排水溝をふさいでいる藁やゴミの撤去作業	10名
10月14日（水）	個人宅の側溝の泥の掻き出し、外壁の泥汚れ落としなど	7名
10月17日（土）	個人宅の床下の消毒作業、ガラスや周辺の清掃作業	11名
10月20日（火）	個人宅の側溝の泥の掻き出し、家の内外の清掃、床板をあげる作業など	17名
11月12日（木）	花屋の清掃作業、ボラセン閉鎖に向けて借りている倉庫の清掃・復旧作業	17名

10/20 報告

○作業時間：10時00分～15時00分

○8人・6人・3人の3グループに分かれて、それぞれが別の個人宅で作業を行いました。

グループ1：家の床板をあげる。家の内外の清掃。

グループ2：家の側溝の泥を掻き出して土嚢袋に詰め、それを少し離れた畑にある穴に移す。

グループ3：家の内外の清掃。

○当日の様子 ※グループ2より



①家の外側の側溝に溜まった泥をスコップで掻き出して土嚢袋に詰める。



②泥がつまった土嚢を運んで、近くの畑に空いた大きな穴に中身を捨てる。空になった土嚢袋は①に戻って再利用。これを繰り返す。



③この日の作業終了後。大分綺麗になりました。

※横浜災害ボランティアネットワーク会議 HP(<http://www.yokohama-saigai-vol-net.jp/>) 上で、全5日間の詳細な活動報告を掲載しています。

活動紹介

横浜災害ボランティアネットワーク会議 会員紹介

本会議は様々な団体・個人のネットワーク組織です。各会員活動を順番でご紹介させていただきます！

横浜YMCA (TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169)

横浜YMCAでは、東日本大震災以降、継続的に復興支援活動を展開しています。今秋11月14～15日に南三陸町から石巻市にかけての被災地訪問ツアーを実施しましたので、簡単にその報告をさせていただきます。現地の被災された方々から話を聞き、将来に向かって自分たちに何ができるかを考えるということが、このツアーの目的でした。

■南三陸町では、津波で被害を受けた戸倉地区にカフェをオープンして地域の復興支援に尽力されている成澤英子さんから、話をうかがいました。大変なダメージを受けたこの地で前向きにしっかりと復興活動に邁進されているお姿は、私たち参加者に大きな共感を与えてくれました。

■大川小学校の訪問では、現地で佐藤敏郎さんと落ち合いました。津波で亡くなられたお子様の話も含め、『2度とこのような悲惨な事故を起こさないよう、私たちが訴え続けていかなければならない』と語ってくださったことが印象的でした。



野菜の試食の様子

■『良葉東部』を訪問しました。地域の企業や支援団体が廃校となった大川中学校の跡地にソーラエネルギーを使った野菜農園を設立し、地域の人材雇用にも貢献されています。横浜のホテルニューグランドにも野菜を卸しているということでした。試食させていただいたフレッシュ野菜は本当においしかったです。

■石巻にこの春オープンした『復興まちづくり情報交流センター』を訪問しました。館長のリチャード・ハルバーシュタットさんは、石巻在住20年のイギリス人で、震災当初からの混乱の経験を踏まえ、未来に向かって頑張るんだという熱い思いを語ってくれました。

■ツアーにあたっては、参加者の同意もあって常磐道を利用しました。楡葉～南相馬にかけての間に飛び込んできた除染シートの光景と高速道路の所々に表示されていた放射線量の計測値が心に痛く刻まれました。



成澤英子さんのお話



リチャード・ハルバーシュタット館長

南区災害救援ボランティアネットワーク (TEL:045-260-2510 (事務局))

南区災害救援ボランティアネットワーク(通称:サーブネット SARV NET: South Accident Rescue Volunteer Network)は、平成18年5月に南区役所、南区社会福祉協議会、南区ボランティア連絡会、南区障害児者団体連絡会、みなみ市民活動センター(現みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ)の5団体で設立し、災害時に備えて互いの連携を図る事を目的に活動してきました。

東日本大震災以降、災害時の支援体制構築へと意識が変わり、関係団体以外の区民からも会員を募り、毎月第2木曜日(8月除く)に運営委員会を開催しています。



南区ボランタリーフェスタ

運営委員会では、話し合いの他に災害ボランティアセンター立ち上げ訓練や、区民への師紹介ができるようにとクロスロードゲーム等を行っています。

また、「区民にネットワークの存在を知ってもらう」ことを目標に、区内のイベントでチラシ配布や、南区ボランタリーフェスタでの東北復興支援物品販売・防災グッズ紹介等の活動にも力を入れています。

南区は隣接区も多いので、今後は他区との連携を視野に入れて、顔の見える関係作りをしていきたいと思ひます。



クロスロードゲームの様子

港南区災害ボランティアネットワーク (TEL: 045-841-0256 (事務局))

今年度は災害ボランティアセンター運営マニュアルの書式の確認、地域防災拠点のHUG訓練の協力、地域防災拠点へのまちあるきを実施しました。

①災害ボランティアセンター運営マニュアルの書式の確認

各部署でどのような書式を使うのかの確認を全員で行いました。

その後、災害ボランティアセンターのレイアウトに書式番号の落とし込みを行うことによって、各部署で使う書式をすぐに取り出せるようになりました。

②地域防災拠点のHUG訓練の協力

地域防災拠点より依頼を受け、HUG訓練の協力を行いました。

グループの進行役を務め、確認すべきポイントの助言を行い、参加者の気づきを促しました。

③地域防災拠点へのまち歩き

ボランティアを地域防災拠点にコーディネートした時、地域防災拠点への道のりを案内するためには自分たちがその道のりを知る必要があるため、拠点までまち歩きを行いました。当日は延べ12名が参加し、午前と午後で各4拠点ずつ経路や道の特徴などを確認しながら歩きました。今後は当日取った記録をもとにDIGを実施する予定です。



地域防災拠点へのまち歩きの様子

磯子区災害ボランティアネットワーク (TEL: 045-751-0739 (事務局))

磯子区災害ボランティアネットワーク (以下、磯子区災ボラ) の会員数は現在、個人会員48名、支援会員9名、団体会員14です。今回は磯子区災ボラの特徴的な活動についてご紹介します。

■災害ボランティアセンター設置・運営訓練

9月23日(水・祝)に大規模な災害が起きた時に設置される「災害ボランティアセンター」の設置・運営訓練を磯子センター体育館にて実施しました。訓練の目的は①災ボラの啓発活動②発災時を想定した実践的シミュレーションをすることです。

事前の訓練も含めた参加者は延べ153名、区役所、地域防災拠点、町内会、施設、関係団体などの参加がありました。毎年訓練を行い、「いざ」という時スムーズに動けるよう備えていきます。



磯子区災ボラ 集合写真



おはなしエプロン実演の様子

■おはなしエプロン

「災害に備えるってどういうこと?」、「(特定小電力) トランシーバって何?」。

これらを子どもにわかりやすく伝えるために考案されたのが『おはなしエプロン』です。災ボラメンバーが小物、人形等を手作りして“仕掛け絵本”ならぬ“仕掛けエプロン”で災害時や無線についてわかりやすくお話します。子どもや親御さんはもちろん、お年寄りにも大好評です。次はエプロンから何が出てくるのか興味津々で見ている・聞いてくれます。

◎大災害が起きた時、被災者の心に寄り添い、日常生活を取り戻すために活動するボランティアを派遣することが私たち災害ボランティアネットワークの役割と認識しています。常時仲間を募集していますので、活動に興味のある方、ご連絡をお待ちしています!

実施報告

平成 27 年度 災害ボランティアコーディネーター
スキルアップ研修会について

災害ボランティア活動やボランティアコーディネートを行う際に、大切にすべき視点やスキルを学び、今後の活動に反映させるために開催しました。今年度は、横浜市に住む外国人の状況を知り、外国人が感じる生活上の困難さと、それに対する支援の状況を学ぶことを通して、地震等の発災時だけでなく平常時の取組みを考える機会となりました。

【日 時】平成 27 年 11 月 19 日 (木) 19:00 ~ 20:30

【場 所】横浜市健康福祉総合センター 4 階 ホール

【参加者】93 名 (行政関係者、市・区災ボラ会員、YOKE 言語ボランティア、区社協職員など)

【講 師】公益財団法人横浜市国際交流協会 藤井美香氏 布施裕子氏
ゲストスピーカー：倉橋ジェラルディン氏 (フィリピン出身)

【内 容】『災害時における外国人住民への支援』

《当日のアンケートより》

- 地域によって外国人の状況も随分異なることがわかった。日本人以上に被災した時の大変さが理解できた。
- 外国籍の方が災害時に何に困るか、実体験や振り返ってお話しいただいたので、よく分かって良かったです。
- YOKEの平時の活動しか知らなかったので、「横浜市外国人震災時情報センター」について知れたことは、とても良かった。また、国際交流ラウンジとの関わり方も知れたこと、とても参考になった。
- 外国人の方のお話を聞く機会はなかなかないため、貴重な機会でした。
- 災害時の問題として「心の壁」という視点を新しく得ることができた。近くの方と感想・考えを共有できたのが良かった。
- 外国の方の発災時の具体的な困りごとをうけて、YOKEが実施している取組み、多言語表示シートなど、いろいろなツールがあるということ。
- 外国人も地域の支援者・パートナーになる、ということ。本当にパワーのあるパートナーであると感じましたし、パートナーとして迎えるための準備をこちらがしなければならないと感じました。

実施予告



平成 27 年度 図上シミュレーション訓練について

災害時に立ち上げる災害ボランティアセンターについて、図上シミュレーションを実施し、運営における市と区、および各区間での連携について訓練を行います。

【昨年度の様子】



日時：平成 28 年 2 月 6 日 (土) 13 時 00 分 ~ 16 時 00 分

場所：横浜市健康福祉総合センター 8 階 大会議室 A・B・F

定員：80 名程度

対象：市・区災害ボランティアネットワーク会員
市・区社協職員 等

※会員以外の方で災害ボランティアに関心のある方はご相談ください

内容：区災害ボランティアセンターに寄せられるボランティアニーズの検討や各区ごとに事前に行った DIG を持ち寄ってのブロック間での共有や支援体制の検討。

申込み：申込書に記入の上、1/29 (金) までに事前申込。

申込書は各会員あてに郵送の他、横浜災害ボランティアネットワーク会議の HP からダウンロードいただけます。